

学部・研究科等の現況調査表

研 究

平成28年6月

旭川医科大学

目 次

1. 医学部・医学系研究科

1 - 1

1. 医学部・医学系研究科

I	医学部・医学系研究科の研究目的と特徴	・・・	1 - 2
II	「研究の水準」の分析・判定	・・・・・・・・・・	1 - 3
	分析項目 I 研究活動の状況	・・・・・・・・・・	1 - 3
	分析項目 II 研究成果の状況	・・・・・・・・・・	1 - 12
III	質の向上度の判断	・・・・・・・・・・	1 - 14

I 医学部・医学系研究科の研究目的と特徴

(研究目的)

本学の基本理念は、医療の質の向上と地域医療への貢献を推進するために高い生命倫理観と高度な実践的能力を有する医療職者を育成すると同時に、生命科学に関する先端的な研究を推進し、高度な研究能力を持つ研究者を育成することにある。この基本理念に沿って、研究水準及び研究の成果等に関する本学の中期目標を次のように掲げている：①独創性を有する研究を推進する。②医学・医療への貢献を目指し、地域社会や国際社会との連携を踏まえた研究を推進する。③研究情報を社会へ発信する。④産学官連携による共同研究等を推進する。⑤研究の水準・成果及び地域社会への貢献度を検証する。⑥研究評価に基づき、研究活動を活性化する。

これらの研究目的を達成するため、(1) 先端的な研究の推進、(2) 社会のニーズに応える研究の推進、(3) 社会に向けた研究情報の発信、(4) 民間等との研究連携及び研究成果の社会還元、(5) 国際交流・連携及び発展途上国への研究支援を積極的に展開している。

(特徴)

本学は、北海道の北部及び東部（以下「道北・道東」という。）地域における高度先端医療の提供と医療過疎の解消を期待され、昭和48年に設置された医科系単科大学として医師及び看護職者を養成し、地域医療を担う人材を提供するとともに、先端医療の開発など医学・看護学領域の様々な研究課題に取り組んでいる。開学40余年の新しい大学ながら、医学部からは5,050名（医学科3,905名、看護学科1,145名）の卒業生、医学系研究科からは1,122名（博士課程957名、修士課程165名）の学位授与者を輩出し、道北・道東のみならず国内外の様々な分野で教育者、研究者、医師、看護職者及び行政官等として活躍している。研究面では、医学・看護学の発展に資するための様々な研究を展開し特に国立大学法人化以降は、「独創性のある生命科学研究」プロジェクトを実行に移し、生活習慣病などに関する学内共同研究を推進し、その研究成果は、旭川医科大学研究フォーラム、機関リポジトリ(AMCoR)、ホームページ等をとおして社会に発信している。

[想定する関係者とその期待]

基本的には、医療を受ける人類すべてが関係者たり得ると考えられるが、教育機関であることも考慮に入れると、教員、大学院学生を含めた学生、さらに、彼らの研究成果を共有、享受する学界が考えられ、研究をとおして得られる最新の知見の伝授が期待される。また、地域で医療人として活躍している卒業生も臨床に直結する優れた研究成果を享受することが期待される。さらに、医学部に課せられた高度医療につながる研究という観点からは、難病や重病に苦しむ患者や患者の家族を含む地域住民が関係者であり、その期待するところは治療に直結する研究成果や地域医療格差を是正する新たな医療技術にある。さらに、共同研究に参画する各種産業分野も重要な関係者であり、直接の研究成果のほかに、研究を通じた将来にわたっての幅広い人的交流が期待される。

II 「研究の水準」の分析・判定

分析項目 I 研究活動の状況

観点 研究活動の状況

(観点に係る状況)

1 研究の実施状況

(教員数) 資料1に、第1～第2期中期目標期間における本学教員数の推移を示す。平成27年5月1日現在の教員数は、第1期中期目標期間末の平成21年度に比べ24人増加している。これは、教育、研究、診療体制の充実を図るため、平成21年度以降、法人措置による定員外職員を次第に多く各部局に配置したことによる(資料1)。

資料1 教員数の推移(休職者を除く)

年度	学長・副学長	基礎医学講座	臨床医学講座	看護学科	一般教育	病院	その他(センター、施設など)	計(A)	特任教員等(B)	合計(A+B)
平成16年度	3	47	78	26	13	94	5	266	0	266
平成17年度	3	51	76	26	15	97	5	273	4	277
平成18年度	4	49	78	24	15	97	4	271	6	277
平成19年度	4	48	76	24	18	96	4	270	10	280
平成20年度	5	52	74	25	16	92	5	269	21	290
平成21年度	5	51(0)	74(4)	27(0)	17(0)	103(0)	5(7)	282(11)	30	312
平成22年度	5	50(0)	74(4)	25(0)	17(0)	105(9)	6(1)	282(14)	29	311
平成23年度	4	48(3)	74(6)	24(0)	19(2)	110(17)	9(2)	288(30)	31	319
平成24年度	4	50(2)	78(7)	23(0)	19(4)	113(22)	11(4)	298(39)	33	331
平成25年度	4	52(2)	77(8)	25(0)	20(4)	114(23)	9(4)	301(41)	35	336
平成26年度	3	53(2)	81(8)	26(1)	20(4)	111(23)	12(6)	306(44)	37	343
平成27年度	4	50(2)	76(6)	27(3)	20(5)	114(18)	12(5)	303(39)	33	336

()内は定員外教員の内数(平成21年度以降) (出典:学校基本調査)

(学術論文) 本学は医科系単科大学であることから、医学研究を中心とした研究活動を活発に展開している。研究活動の重要な評価指標である欧文論文発表数の推移は、資料2のとおりであり、第1期中期目標期間に比べ件数が合計で25.9%増加している。なお、看護学科では国際誌への研究成果の公表に努めた結果、第1期中期目標期間に比較して看護に関する欧文論文数が5件から19件に増加した。

資料2 欧文論文の発表状況

区分(暦年)	件数 *1	IF計 *2
平成16年	163	662
平成17年	171	670
平成18年	168	557
平成19年	193	637
平成20年	162	545
平成21年	172	539
第1期計	1,029	3,610
平成22年	178	494
平成23年	223	588
平成24年	214	561
平成25年	207	626
平成26年	235	663
平成27年	239	754
第2期計	1,296	3,686

*1) Scopus

*2) Journal Citation Report (2014年)

(出典：事務局資料)

(学会等の活動) 学会等の活動は第1期中期目標期間に比べ著明に活発化している(資料3)。

資料3 学会等の活動状況

資料3-A. 研究発表(招待・特別・基調)

年度	国際又は全国レベル学会等	その他の学会等	計
平成16年度	7	42	49
平成17年度	14	48	62
平成18年度	28	48	76
平成19年度	29	68	97
平成20年度	34	91	125
平成21年度	39	86	125
第1期計	151	383	534
平成22年度	37	86	123
平成23年度	28	80	108
平成24年度	31	107	138
平成25年度	45	104	149
平成26年度	46	121	167
平成27年度	30	49	79
第2期計	217	547	764

資料3-B. 研究発表(シンポジウム、ワークショップ、パネル)

年度	国際又は全国レベル学会等		その他の学会等		計
	指名	公募	指名	公募	
平成16年度	10	45	0	4	59
平成17年度	11	41	4	14	70
平成18年度	13	57	2	16	88
平成19年度	15	57	4	35	111
平成20年度	14	56	10	24	104
平成21年度	33	78	13	32	156
第1期計	96	334	33	125	588
平成22年度	42	60	9	23	134
平成23年度	46	37	18	35	136
平成24年度	48	24	14	12	98
平成25年度	68	34	23	7	132
平成26年度	43	27	20	3	93
平成27年度	49	21	10	2	82
第2期計	296	203	94	82	675

資料3-C. オーガナイザー

年度	国際又は全国レベル学会等	その他の学会等	計
平成16年度	—	—	—
平成17年度	—	—	—
平成18年度	—	—	—
平成19年度	—	—	—
平成20年度	—	—	—
平成21年度	37	33	70
第1期計	37	33	70
平成22年度	31	54	85
平成23年度	29	52	81
平成24年度	40	46	86
平成25年度	39	56	95
平成26年度	51	67	118
平成27年度	51	49	100
第2期計	241	324	565

(注1) 平成20年度以前は、DB-Spiral導入の際の一括登録データには含まれていなかったため、登録されていない。

(注2) 平成27年度については、各教員からのデータ未登録分があるため、確定の数値ではない。

(出典：事務局資料)

(特許) 知的財産に関する学内規程等を整備するとともに、平成22年度に設置した知的財産センターにマネージャーとして専任教員を配置し、知財相談・知財教育体制を強化している。また、知的財産の計画的創出に向け、説明会やセミナーを開催して学内啓発に努めている。その結果、第1期中期目標期間に比べ出願数が3倍、取得数が20倍、また産業財産権の保有件数が11倍と、著明に増加している(資料4)。

資料4 産業財産権・特許状況

年度	産業財産権の保有件数	特許		ライセンス契約	
		出願数	取得数	件数	収入(千円)
平成16年度	2	0	0	0	0
平成17年度	2	2	0	0	0
平成18年度	2	3	0	0	0
平成19年度	0	8	0	0	0
平成20年度	1	7	1	0	0
平成21年度	5	9	1	2	2,050
第1期計	12	29	2	2	2,050
平成22年度	6	20	0	1	0
平成23年度	8	18	1	0	0
平成24年度	14	10	5	0	0
平成25年度	25	7	11	3	210
平成26年度	34	16	9	3	0
平成27年度	47	17	13	5	19
第2期計	134	88	39	12	229

(出典：事務局資料)

(共同研究) 製薬メーカーとの医薬品の薬効等に関する研究や公的機関との公衆衛生等に関する研究などを積極的に受け入れている(資料5)。第1期中期目標期間に比べ、127件、増加している。

資料5 民間等との共同研究の実施状況

平成16年度～平成21年度計

相手先区分	受入件数	受入金額(千円)	共同研究員受入人数
国内企業	126	228,096	18
独立行政法人	5	6,120	1
その他公益法人等	2	600	0
地方公共団体	6	7,300	0
大学	3	0	0
その他	0	0	0
合計	142	242,116	19

平成22年度～平成27年度計

相手先区分	受入件数	受入金額(千円)	共同研究員受入人数
国内企業	218	243,766	13
独立行政法人	3	0	0
その他公益法人等	6	5,283	0
地方公共団体	2	5,300	0
外国企業	7	0	0
大学	15	450	0
その他	18	100	0
合計	269	254,899	13

(出典：国立大学評価用調査票)

(受託研究) 民間企業からの製薬や薬効評価などに関する研究、公的機関からの疫学研究等に関する一般受託研究の受入件数は、第1期中期目標期間23件/年から第2期中期目標期間は47件/年と倍増している(資料6)。また、治験薬試験は、第1期から引き続き、製薬メーカーから100件/年程度を、病理組織検査は道北・道東の医療機関からのものを中心に3,200件/年程度を受け入れている。

資料6 受託研究の受入状況

年度	受託研究受入状況									
	一般受託研究		受託試験		病理組織検査		治験薬試験		合計	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
平成16年度	21	51,014	-	-	6,284	40,075	79	88,274	6,384	179,363
平成17年度	18	29,501	-	-	7,121	41,622	95	84,822	7,234	155,945
平成18年度	20	32,346	-	-	5,120	37,677	102	120,528	5,242	190,551
平成19年度	22	32,992	-	-	4,274	31,547	113	68,894	4,409	133,433
平成20年度	23	20,026	-	-	4,345	31,075	127	57,063	4,495	108,164
平成21年度	30	26,214	-	-	4,753	34,151	134	61,770	4,917	122,135
第1期計	134	192,093	-	-	31,897	216,147	650	481,351	32,681	889,591
平成22年度	38	39,427	-	-	3,753	28,106	152	68,814	3,943	136,347
平成23年度	37	50,324	-	-	2,693	20,423	171	109,581	2,901	180,328
平成24年度	39	74,756	-	-	2,405	17,778	178	119,860	2,622	212,394
平成25年度	26	19,952	143	23,216	3,039	21,265	41	76,080	3,249	140,513
平成26年度	62	98,768	140	17,342	3,310	27,290	37	66,424	3,549	209,824
平成27年度	80	57,810	120	18,141	4,264	38,995	32	74,752	4,496	189,698
第2期計	282	341,037	403	58,699	19,464	153,857	611	515,511	20,760	1,069,104

注) 製造販売後臨床試験については、平成24年度までは「治験薬試験」に、平成25年度以降は「受託試験」に計上している。

(出典：国立大学評価用調査票)

2 研究資金の獲得状況

第2期中期目標期間における研究資金の獲得状況を資料7に示す。第1期中期目標期間に比べ、総額で8億7千万円(13.9%)の増額となっている。以下に各項目の獲得状況について解説する。

資料7 外部資金獲得状況(総表)

(単位：千円)

年度	文科省 科学研究費	競争的 外部資金	共同研 究	受託研究	寄附金	寄付講 座	学術振興 後援資金	計
平成16年度	208,520	88,085	33,800	179,363	445,925	50,500	30,591	1,036,784
平成17年度	213,560	99,043	44,080	155,945	371,306	71,500	7,636	963,070
平成18年度	222,710	54,578	41,876	190,551	418,849	35,500	1,072	965,136
平成19年度	269,340	237,451	48,985	133,433	395,413	64,500	12,565	1,161,687
平成20年度	216,802	334,242	44,525	108,164	425,003	136,000	4,925	1,269,661
平成21年度	170,147	418,560	28,850	122,135	384,623	67,500	4,261	1,196,076
第1期計	1,301,079	1,231,959	242,116	889,591	2,441,119	425,500	61,050	6,592,414
平成22年度	188,461	394,809	49,870	136,347	448,791	116,500	2,976	1,337,754
平成23年度	198,508	257,952	46,815	180,328	513,686	143,500	3,465	1,344,254
平成24年度	225,290	129,395	22,100	212,394	479,412	173,600	3,774	1,245,965
平成25年度	181,510	142,206	46,207	140,513	456,707	162,800	5,491	1,135,434
平成26年度	245,850	229,671	52,632	209,824	447,608	152,500	3,105	1,341,190
平成27年度	258,770	168,908	37,275	189,698	386,633	114,000	2,620	1,157,905
第2期計	1,298,389	1,322,941	254,899	1,069,104	2,732,837	862,900	21,431	7,562,502

(出典：事務局資料)

(文部科学省科学研究費助成金)

「積極的な申請を促すとともに獲得に向けた戦略的な取組を実施する」という方針を徹底し、説明会の開催などにより学内啓発に努めた結果、申請件数が第1期中期目標期間に比べ増加し、内定件数も増えた(資料8)。ただ、基盤研究Aなどの大型プロジェクトの採択数が少なかったため、総額では、第1期中期目標期間とほぼ同額にとどまっている。なお、内定を受けた申請者には、「独創性のある生命科学研究助成(個別研究)」を受けた若手研究者79名が含まれる。

資料8 文部科学省科学研究費助成金の受入状況

(単位：千円)

年 度	申請件数	内定件数	内定金額	間接経費	合計
平成16年度	254	87	205,400	3,120	208,520
平成17年度	306	88	210,500	3,060	213,560
平成18年度	305	78	219,920	2,790	222,710
平成19年度	301	75	230,400	38,940	269,340
平成20年度	300	70	181,240	35,562	216,802
平成21年度	301	77	136,490	33,657	170,147
第1期計	1,767	475	1,183,950	117,129	1,301,079
平成22年度	346	102	146,170	42,291	188,461
平成23年度	311	103	152,860	45,648	198,508
平成24年度	315	110	173,300	51,990	225,290
平成25年度	323	93	139,600	41,910	181,510
平成26年度	326	109	189,600	56,250	245,850
平成27年度	333	145	200,510	58,260	258,770
第2期計	1,954	662	1,002,040	296,349	1,298,389

注1) 機構へ提出したデータであるため、「概要」(実績値)とは異なる

注2) 奨励研究を除く

(出典：事務局資料)

(競争的外部資金) 競争的外部資金の獲得額(総額)は、第1期中期目標期間に比べ9千万円増加している(資料9)。これは、「第一期橋渡し研究支援推進プログラム事業」とそれを継承する「第二期橋渡し研究加速ネットワークプログラム事業」(以下、両者を併せて「橋渡し研究事業」という)、「戦略的創造研究推進事業(CREST)」, 「子どもの健康と環境に関する全国調査」などが採択されたことによるところが大きい。

「橋渡し研究事業」に関しては、その開始当初から、全国9拠点の一つである北海道臨床開発機構(北大、札幌医大及び本学で構成)の一員として参画してきた。平成27年には、事業の実施体制整備の一環として、学内に「臨床研究支援センター」を設置し、「教育研究推進センター」と連携して基礎シーズの育成から臨床展開までをシームレスに支援する学内体制の整備を進めた。その結果、First-in-Human臨床試験を本学附属病院で開始している1件を含め、大きな社会貢献が期待される成果が得られつつある。

資料9 競争的外部資金の受入状況

区分		第1期計		第2期計		
		採択件数	受入金額(千円)	採択件数	受入金額(千円)	
政府等の助成金	総務省	3	91,175	2	22,923	
	文部科学省	科学技術振興調整費	2	67,204	3	68,646
		戦略的創造研究推進事業	6	13,000	8	90,628
		その他(※)	38	680,370	32	878,770
	厚生労働省	18	304,078	11	157,414	
	農林水産省	2	4,100	1	2,000	
	経済産業省	6	66,231	4	36,854	
	環境省	0	0	3	30,984	
	その他省庁等	0	0	1	15,522	
	民間からの助成金	5	5,800	0	0	
地方自治体等の助成金	0	0	2	19,200		
計	80	1,231,958	67	1,322,941		

(出典：国立大学評価用調査票)

(共同研究) 第1期中期目標期間に比べ、受入件数の増加に伴い、受入金額(総額)も1千3百万円増加した(資料7)。

(受託研究) 一般受託研究の受入件数は、第1期中期目標期間に比べ倍増し、それに伴って受入金額も1億8千万円増加している(資料7)。

治験薬試験に関する受入金額は、平成26年度以降「受託試験」として別途集計するようになった製造販売後臨床試験の分を合算すると、第1期中期目標期間に比べ9千3百万円増加した(資料6)。

病理組織検査は、第1期中期目標期間の平成17年度のピークから減少傾向にあり、受入金額(総額)は6千2百万円の減となった(資料6)。

(寄附金) 寄付講座、研究部門を除く寄附金の受入額は、第2期中期目標期間をとおして年間平均4億6千万円であった。受入総額は、第1期中期目標期間に比べ2億9千万円増加した(資料10)。

資料 10 寄附金の受入状況

年度	寄附金		寄附講座・研究部門		合計
	(寄附講座・研究部門を除く)		設置 数	受入金額(千円)	受入金額(千円)
	受入件 数	受入金額(千円)			
平成 16 年度	508	445,925	0	50,500	496,425
平成 17 年度	482	371,306	2	71,500	442,806
平成 18 年度	491	418,849	3	35,500	454,349
平成 19 年度	464	395,413	3	64,500	459,913
平成 20 年度	455	425,003	5	136,000	561,003
平成 21 年度	453	384,623	5	67,500	452,123
第 1 期計	2,853	2,441,119	18	425,500	2,866,619
平成 22 年度	488	448,791	6	116,500	565,291
平成 23 年度	507	513,686	6	143,500	657,186
平成 24 年度	504	479,412	7	173,600	653,012
平成 25 年度	503	456,707	7	162,800	619,507
平成 26 年度	520	447,608	7	152,500	600,108
平成 27 年度	498	386,633	7	114,000	500,633
第 2 期計	3,020	2,732,837	40	862,900	3,595,737

(出典 : 国立大学評価用調査票)

(寄附講座) 寄付講座と研究部門の設置数が 2.2 倍, 受入金額が 1.3 倍と, 第 1 期中期目標期間に比べとも増加した(資料 10)。

(学術振興後援資金) 第 2 期中期目標期間を通じ年平均 60 件, 金額にして 360 万円の入金があった(資料 11)。

資料 11 学術振興後援資金 (単位:千円)

年度	件数	金額
平成 16 年度	637	30,591
平成 17 年度	83	7,636
平成 18 年度	17	1,072
平成 19 年度	19	12,565
平成 20 年度	97	4,925
平成 21 年度	64	4,261
第 1 期計	917	61,050
平成 22 年度	62	2,976
平成 23 年度	49	3,465
平成 24 年度	54	3,774
平成 25 年度	74	5,491
平成 26 年度	66	3,105
平成 27 年度	55	2,620
第 2 期計	360	21,431

(出典 : 国立大学評価用調査票)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

論文発表、学会活動ともに活発である。知的財産に関する規定の整備や知的財産マネージャーの配置などにより特許出願件数が大きく増加している。「独創性のある生命科学研究助成」などにより科学研究費や競争的外部資金の獲得増加に努めるとともに、共同研究、受託研究を積極的に受け入れることなどにより、外部資金受入額が第1期中期目標期間に比べ総額で8億7千万円(13.0%)増加している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

観点 研究成果の状況

(観点に係る状況)

本学の「第2期中期目標」では、研究水準に関する目標として「独創性を有する研究を推進すること」と、「医学・医療への貢献を目指し、地域社会や国際社会との連携を踏まえた研究を推進すること」を掲げている。「研究業績説明書」には、これらの目標のいずれかに合致し、高インパクト論文分析の結果や他の客観的評価を参考に水準が高いと判定した研究業績 58 件を選定し掲載している。この件数は、平成 27 年 5 月 1 日に在籍していた助教以上の教員総数 278 名の 20.9%に相当する。

選定の根拠とした「代表的な研究成果」の内訳を資料 12 に示す。欧文論文については、Elsevier 社の学術論文データベース Scopus の提供する Top citation percentiles、Field-weighted citation impact (FWCI) percentiles、Top journal percentiles、等のパーセンタイルデータを判定の客観的指標として用いた。

資料 12 代表的な研究成果の内訳

成果区分	件数	備考
欧文論文	114	高インパクト論文分析の対象
邦文論文	8	
著書	10	
学会等での発表・講演	11	
特許	7	
計	150	

(出典：事務局資料)

資料 13 に「研究業績説明書」記載の研究業績の部局別及びテーマ（「学術的意義」又は「社会・経済・文化的意義」）別の内訳を示す。「学術的意義」では、上記のパーセンタイル値のいずれかが 25%未満である研究成果(欧文論文)を含むことを SS 又は S と判定するための必要条件とした。「社会・経済・文化的意義」では、必ずしもその条件を満たさないものであっても、独創性、社会的貢献度が顕著であると認められるものを SS 又は S と判定した。部局別の件数については、各部局の規模、業務の特性から見て、相応の割合になっていると判断する。なお、「学術的意義」と「社会・経済・文化的意義」の双方で SS 又は S と判定した研究業績が、基礎医学系講座で 2 件、臨床医学系講座で 8 件、一般教育で 1 件ある。

資料 13 研究業績のテーマ別・部局別内訳

提出部局	部局数	件数	学術的意義		社会・経済・文化的意義		備考
			SS	S	SS	S	
基礎医学講座	8	15	1	14	0	2	
臨床医学講座	15	32	5	22	0	13	寄附講座を含む
一般教育	3	4	0	4	0	1	
センター等	2	2	1	0	0	1	
病院	4	5	0	3	1	1	
計	32	58	7	43	1	18	

(出典：事務局資料)

資料 14 に、SS と判定した研究テーマを示す。「学術的意義」で SS として選定した業績については、どれもパーセンタイル値(上記)のいずれかが 1%未満である研究成果(欧文原著論文)を含んでいる。

資料 14 卓越した水準(SS)にあると判定した研究業績

学術的意義

提出講座等	研究テーマ
寄生虫学講座	世界におけるエキノコックス、テニア条虫の種分化、分子進化研究
外科学講座（循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野）	重症虚血肢治療指針作成のための研究
皮膚科学講座	遺伝性皮膚疾患の原因の解明と治療の開発
眼科学講座	2型糖尿病患者における網膜循環動態の臨床研究
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	鼻性NK/T細胞リンパ腫に対する新規診断治療法の開発
救急医学講座	死後CTを活用した心肺蘇生中の胸骨圧迫による合併症の分析
教育研究推進センター	トリプトファン代謝の感染免疫に対する機能

社会・経済・文化的意義

提出講座等	研究テーマ
遠隔医療センター	遠隔医療のための情報通信技術の研究

（出典：事務局資料）

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由）

客観的指標に照らして学術的意義においてSSと判定した7件、Sと判定した43件を含め、第2期中期目標に掲げた水準を超える研究成果を得ている。

Ⅲ 質の向上度の判断

(1) 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

第1期中期目標期間と比較して、論文等の発表件数が25.9%増加している(資料2)。学会活動も著明に活発化している(資料3)。知的財産に関する規定の整備や知的財産管理アドバイザーの配置などにより特許出願件数が大きく増加している(資料4)。「独創性のある生命科学研究助成」などにより科学研究費(資料8)や競争的外部資金(資料9)の獲得増加に努めるとともに、共同研究(資料5)、受託研究(資料6)を積極的に受け入れることなどにより、外部資金受入額が第1期中期目標期間に比べ総額で8億7千万円(13.0%)増加している(資料7)。

(2) 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

第2期中期目標期間中に、客観的指標に照らして学術的意義においてSSと判定した7件、Sと判定した43件を含め、第2期中期目標に掲げた水準を超える研究成果が得られている(資料8～10)。

客観的指標を取り入れた研究成果の判定は今期から始まったものなので、第1期中期目標期間との直接の比較はできないが、論文等の発表件数が増加しており(資料2)、学会活動も顕著に活発化している(資料3)。